

山形県 自家用自動車

定価 1部・20円
会員の購読料は会費に含まれております
発行所
山形市大字漆山字行段1422
一般社団法人
山形県自家用自動車協会
電話023 (686) 3951
<https://www.y-jikayo.or.jp>
印刷/株駒林印刷所

令和5年度交通安全県民運動実施要綱決定 交通安全「互いに守る思いやり」県民運動

令和4年の山形県内の交通事故発生状況は死者数が26人と前年に比べ2人増加した一方、発生件数2,970件(前年比214件減)、負傷者数3,469人(同291人減)、重傷者数291人(同54人減)は、それぞれ前年に比べ大きく減少しました。死者数は前年より増加したものの、統計を取り始めた昭和23年以降で最少となった前年に次いで2番目少ない結果となりました。

全体の6割以上を占めているほか、高齢ドライバーが第1当事者となった死者数も11人(同2人増)と増加し、全体の約4割を占めています。

子どもの事故は、発生件数91件(前年比41件減)、負傷者数101人(同51人減)と大きく減少しました。

自転車乗車中の事故は、発生件数232件(前年比78件減)、負傷者数232人(同80人減)と大幅に減少したものの、死者数は2人(同1人増)と増加しました。

悪質かつ重大な事故を引き起こす飲酒運転による事故は、発生件数9件(前年比3件減)、負傷者数13人(同3人減)、死者数0人(同1人減)といずれも前年を下回ったが、いまだ後を絶たない状況です。

これらの交通情勢を踏まえて山形県交通安全対策協議会は、令和3年9月に策定した第11次山形

令和4年度山形県交通安全実施計画における目標値では、年間死者数(24人以下)は達成出来なかったものの、年間重傷者数(329人以下)は達成しています。

そのうち、高齢者の事故は、発生件数632件(前年比47件減)、負傷者数663人(同55人減)とそれぞれ減少となりましたが、死者数は17人(同1人増)と増加し、いまだ死者

☆ 運動の重点

- 1 運転者の基本ルール遵守徹底
- 2 高齢者と子どもの交通事故防止
- 3 飲酒運転の撲滅
- 4 自転車利用時の交通事故防止

☆ 期間を定めて実施する運動

運動名	期 間
新入学児童(園児)の交通事故防止強化旬間	4月6日(木)～4月15日(土)(10日間)
春の交通安全県民運動(春の全国交通安全運動)	5月11日(木)～5月20日(土)(10日間)
"明るいやまがた"夏の安全県民運動	7月21日(金)～8月20日(日)(1ヶ月間)
秋の交通安全県民運動(秋の全国交通安全運動)	9月21日(木)～9月30日(土)(10日間)
高齢者の交通事故防止推進強化旬間	11月1日(水)～11月10日(金)(10日間)
飲酒運転撲滅・冬の交通安全県民運動	12月11日(月)～12月20日(水)(10日間)
交通安全の日(街頭指導強化の日)	毎月1日、15日 (※土・日・祝日の場合はその翌日)
交通事故死ゼロを目指す日(全国一斉)	5月20日(土)、9月30日(土)

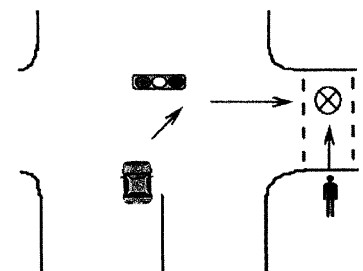
交通安全ありがとう運動 展開中
横断歩道では歩行者が最優先!
「渡ります」
止まったやさしさに
「ありがとう」

交差点横断中の事故 右折時・夜間に注意!

1月24日午前6時12分頃、山形市内において、高齢運転者が信号交差点を右折する際、横断歩道を右から左に横断中の歩行者と衝突する死亡事故が発生しました。

山形県警察本部がまとめた、平成30年から令和4年までの5年間に発生した交差点横断中の歩行者事故は638件で、このうち、冬期間(1月から3月及び12月)の昼夜別では、夜間の発生が69%と約7割だったとしています。また、全体における車両の進行状況別では、右折が50%と半数を占め、次いで直進が26%、左折が10%、発進が10%などとなっています。

県警は、夜間でも歩行者はいるということに留意して、周囲をよく見て運転して欲しいとしています。

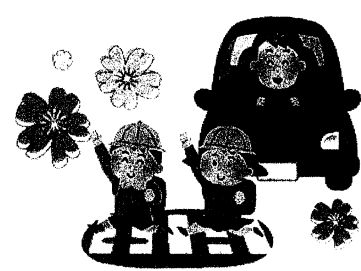


4月6日から4月15日まで 新入学児童(園児)の 交通事故防止強化旬間

令和5年度「新入学児童(園児)の交通事故防止強化旬間」が、4月6日から15日までの10日間実施されます。

春は、交通ルールに慣れた新入学児童(園児)が新たに道路交通に参加し始めることから、左右の安全を確認しないでの道路横断や急な飛び出しなどによる交通事故の発生が懸念されます。

このような状況を踏まえ、新入学児童(園児)に対し、日常生活において安全に道路を通行することができるよう、交通安全



後部座席もシートベルト着用を!

山形県の一般道路の後部座席着用率は50.1% JAF・警察庁 日本自動車連盟(JAF)は、シートベルト着用の促進を図るため、昨年10月11日から12月31日の間、警察庁と合同で「シートベルト着用状況全国調査」を実施し、その結果を公表しました。

全国では、一般道路781カ所、高速道路104カ所の計885個所で実施され、着用率は別表のとおり、運転席と助手席は、一般道路及び高速道路のいずれでも96%以上と高い結果となった一方、後部座席は、一般道路で42.9%(前年比±0)、高速道路で78.0%(同2.3%増で、特に、一般道路での着用率の低さが目立っています。

県内では、一般道路13カ所箇所、高速道路2カ所

所々実施され、着用率は別表のとおり、運転席と一般道路、高速道路のいずれでも全国を上回りましたが、一般道路の後部座席は50.1%で、調査開始以降初めて50%を超える結果となりましたが、未だ半数が非着用の状態です。

一般道路での後部座席の着用率が高かったのは、岐阜県64.9%、群馬県61.1%、山梨県60.4%、神奈川県53.4%、長野県53.1%などで、山形県の50.1%は全国11位となっています。

JAFは、後部座席の方がシートベルトを着用しない状態で交通事故が発生した場合、①車内の構造物(ピラーやシートなど)に激突し、自らが傷

害を負う、②運転者や助手席同乗者へぶつかり、危害を加える、③窓などから車外に放出される、などの危険性があるとして、一般道路でも確実に着用するように呼びかけています。

また、警察庁は、衝突実験映像等を活用して、後部座席におけるシートベルト着用の有効性・被害軽減効果を実感できる交通安全教育を推進していくとしています。



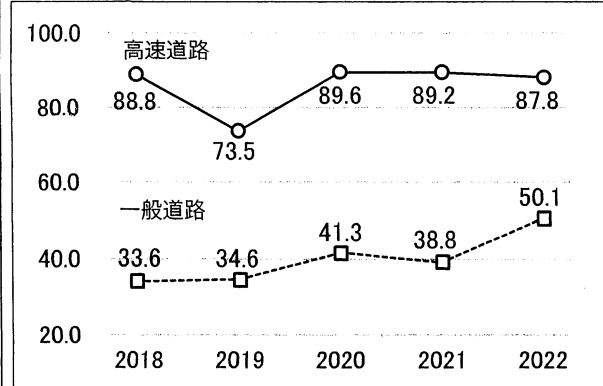
ダミーがシートごと運転席ダミーを押しつぶした

別表 2022年シートベルト着用状況全国調査結果

全国	一般道路			高速道路		
	総数	着用	着用率	総数	着用	着用率
運転席	304,419	301,660	99.1%	55,542	55,297	99.6%
助手席	48,015	46,516	96.9%	19,163	18,911	98.7%
後部座席	55,919	23,968	42.9%	13,757	10,725	78.0%

山形県	一般道路			高速道路		
	総数	着用	着用率	総数	着用	着用率
運転席	5,000	4,991	99.8%	1,000	998	99.8%
助手席	1,270	1,258	99.1%	201	200	99.5%
後部座席	1,004	503	50.1%	262	230	87.8%

< 山形県の後部座席着用率の推移 >



警察庁

用ヘルメットをかぶらせるよう努めなければならない。』ことに加え、「自転車乗車者には、乗車用ヘルメットをかぶるよう努めなければならない。』こと、及び「自転車の運転者は、他人を当該自転車に乗車させるときは、当該他人に乗車用ヘルメットをかぶらせるよう努めなければならない。』ことの規定が追加されたことより、令和5年4月1日からは、全ての年齢層の自転車利用者に対して、乗車用ヘルメット着用が義務付けられることとなる。



山形県

また、1年前の令和4年1月1日現在の人口105万1975人と比べると1万14298人の減少となります。令和4年12月1日以降の人口の推移は別表のとおりです。

帯で、令和4年12月に比べ181世帯の減少となり

年月日	人口総数	
H3.12.1	1,053,029	
H4. 1. 1	1,051,975	
H4. 2. 1	1,050,788	
H4. 3. 1	1,049,621	
H4. 4. 1	1,046,016	

別表 県内人口の推移		
年月日	人口総数	対前月 増減数
H3.12.1	1,053,029	
H4. 1. 1	1,051,975	△ 1,054
H4. 2. 1	1,050,788	△ 1,187
H4. 3. 1	1,049,621	△ 1,167
H4. 4. 1	1,046,016	△ 3,605
H4. 5. 1	1,045,268	△ 748
H4. 6. 1	1,044,552	△ 716
H4. 7. 1	1,043,707	△ 845
H4. 8. 1	1,042,972	△ 735
H4. 9. 1	1,041,968	△ 1,004
H4.10.1	1,040,971	△ 997
H4.11.1	1,039,920	△ 1,051
H4.12.1	1,038,785	△ 1,135
H5. 1. 1	1,037,677	△ 1,108

「軽自動車には軽燃料の入れ間」

日本自動車連盟（ＪＡＦ）は、昨年10月の1ヶ月間に燃料の入れ間違いで出動した件数が105件あったとして、注意を呼びかけています。

入れ間違いの内訳は、判明した分で、ガソリン車に軽油を給油したケースが

いたらJAFに連絡するなど早急な対処が大切と
しています。また、レンタ
カーなどマイカーでない
車や、初めて乗る車にセル
フ式給油スタンドで給油
する際は、車検証などで
燃料の種類を確認して、
入れ間違い防止に努めて
欲しいとしています。

ると、黒い排気ガスが出てやがてエンジンが止まります。

JAFは、エンジン始動前すぐに正しい燃料を入れ替えば大きな問題はないとして、間違いに気付

自動車登録等適正化推進協議会

手続き
なお、軽自動車は、「変更登録」「移転登録」とも「自動車検査証の記載事項変更手続」となります。同協議会は、これらの手続を行わないと、リコー案内、税金や保険のお知

らせが届かない、また、前の所有者に届けられトラブルの原因となる。盗難や事故のときに所有者や使用者の確認が遅れる。などの支障が生じるおそれがあるとしています。

ご不明な場合、下記又は当協会各支部へお問い合わせください。

TEL 050-0381611836

TEL 050-0381611835

TEL 050-55402014

TEL 050-55402013

所有者が変わったとき

移転登録 が必要!

↓

所有書を変更したときは
移転登録が必要です。

詳しくはこちらは国土交通省HPを参照!
<https://www.jitsusha-honcho.jp/portal/mst/g0/j0/ksusha/kansetsu.html>



引越ししたとき

変更登録 が必要!

↓

引越ししたときは
変更登録が必要です。

詳しくはこちらは国土交通省HPを参照!
<https://www.jitsusha-honcho.jp/portal/mst/g0/j0/ksusha/kansetsu.html>

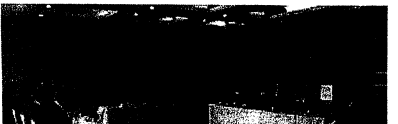


県自家用自動車協会

年割れしており、山形県から委託を受けている自動車保管場所現地調査件数も減少傾向が続いているなどとあいさつしました。

事業計画は、迅速・適正
な自動車保管場所現地調
査、行政書士法人と連携
した適切な自動車登録業

務の推進、自動車共済・自賠責共済契約拡大の強化の3点を活動の重点として、自家用自動車に係る交通安全の普及や事故防止の啓発活動等の事業を推進するとしています。



収支予算は、保管場所調査件数の減少や燃料費等の値上がりなどを見込んだことから、収入、支出とも前年度を下回る予算案となっています。

そのほか、報告事項として、自動車保管場所現地調査の状況、令和5年度の行事予定などについて説明を行いました。

（5ヶ月連続増加）
東北運輸局

で2ヶ月連続して増加しました。

○軽自動車は28.3%増で8ヶ月連続して増加

減	率
255	36.7
▲ 81	▲ 10.8

し、小型二輪車は7台増で5ヶ月連続して増加しました。

東北管内でも18.5%増と5ヶ月連続して増加し、普通

別表 1月新車新規登録・届出台数

			5年1月	前年同月	増
登乗	普通		950	695	
	小型		669	750	

		5年1月	前年同月	増 減	率
登録自動車	乗 用 車	950	695	255	36.7
	普 通	950	695	255	36.7
	小 型	669	750	▲ 81	▲ 10.8
	計	1,619	1,445	174	12.0
	貨 物	190	164	26	15.9
	その他	53	52	1	1.9
	計	1,862	1,661	201	12.1
軽自動車		1,747	1,362	385	28.3
小型二輪車		9	2	7	350.0
総 合 計		3,618	3,025	593	19.6

注1) 乗用車・普通は3ナンバー、乗用・小型は5ナンバー、貨物車は1又は4ナンバー、その他はバス、特種用途車等である。

2) 軽自動車については、軽自動車検査協会調べの速報値

車と軽自動車が大きく増加しています。